

福井県ふるさと文学館報

第7号

わあこわい

館長 堂阪 弘美

まだ寒さが残る中にも雪解け水のせせらぎが春の訪れを感じさせるようになりました。開館から六周年を迎えた今年度は、新型コロナウイルスの感染が拡大し騒然とするなかで、文学館としてどう活動すべきかを考えさせられた貴重な一年となりました。

コレクション展「没後三〇年 則武三雄展」は臨時休館明けの五月一日に開幕し、来館者の人数や観覧時間に制限を設け、館内での距離にも留意しつつ九月一三日までの長期開催といたしました。また、夏に予定していた「山と文学展」はホームページ等で閲覧可能なデジタル展示を作成いたしました。感染が落ち着いた秋には企画展「石川九楊の世界〜書という文学への旅〜」を開催し、石川氏の多彩な評論活動や未公開の書作品、愛用の書字文房具などを展示いたしました。また石川氏による講演会、文学講座も参加数を限る形で行われ好評のうちに幕を閉じました。

この他、作家・壁井ユカコ氏による高校生への出前授業や一部の文章講座、文学ゼミをオンライン形式で実施することや、文学講座の講師として県内在住の作家や文学関係者に改めて焦点を当てることにより、今年も多くの方々々に文学に親しんでいただく機会を提供することができました。

今年度学んだ様々な経験を活かし、今後も文学に触れる喜びと感動を提供してまいりたいと存じますので、皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

企画展

没後三〇年 則武三雄展

会期 五月一日(月)〜九月一三日(日)

則武三雄は福井の文学に大きな影響を与えた詩人で、終戦後、三好達治の誘いを受け福井県へ移住しました。その後、『紙の本』『葱』などの詩集を発表し、独自の出版活動を行いながら、多くの後進を育てました。今も、その魅力ある人柄と作品は愛され続けています。本展では、当館所蔵の約一八〇〇点の資料の中から、原稿や愛用品など多彩なコレクションを紹介しました。

また、ご自宅でもご覧いただけるよう、ホームページでデジタル展示や子ども向けの動画を公開しました。



石川九楊の世界〜書という文学への旅〜

会期 一〇月二三日(金)〜一月二四日(日)

秋季企画展として、書家で評論家の石川九楊氏の作品と業績を紹介する展覧会を開催しました。

一九四五年に現在の越前市に生まれた石川氏は、五歳で書塾に通い始め、中学生の時に生涯の師となる垣内楊石氏に出会い書の芸術性に開眼して以来、書家として新しい書の表現を追究し多彩な書を生み出してきました。また、書く行為を分析し、書にまつわる多くの評論作品を発表し続けています。

展覧会では、灰色の染紙を使った初期作品や初公開となる「はぐれ鳥とべ」の習作、新元号について書いた最新作「令和論 レエワ、レイナ、レイカ、リョウウ騒動記」などの書作品や、評論全著書、評伝『河東碧梧桐 表現の永続革命』の自筆原稿全点と執筆資料などを展示し、評論家としての業績を広く紹介しました。また、重さ約三〇〇kgの巨大硯など愛用の文房具も展示しました。



全国文学館協議会共同展示「三・一一文学館からのメッセージ」 〜東日本大震災から一〇年、福井地震から七三年、災害をみつめる〜

会期 二月一三日(土)〜三月二一日(日)

二〇二一年は、東日本大震災から一〇年にあたるため、日本近代文学館の特別協力を得て、岡野弘彦氏や馬場あき子氏、照井翠氏らが揮毫した作品を展示するとともに、福井地震を描いた作品を紹介しました。

また、伊万智氏がコロナ禍を題材にした作品を揮毫した色紙や山崎光夫氏がベスト菌を発見した北里柴三郎を描いた「ドンネルの男」の校正原稿など、感染症に関する作品も紹介しました。

特集展示

◆代表作家ゾーン

三好達治生誕二二〇年特集コーナー

会期 八月八日(土)〜九月二二日(火・祝)

三好達治は一九四四年より五年間、三国で過ごし、越前・三国を「わが心のふるさと」と語るほど愛しました。

三好達治の生誕一二〇年を記念し、亡くなる五日前に書いた絶筆の詩稿「春の落葉」を初公開しました。

高見順関連展示

会期 八月八日(土)〜九月二二日(火・祝)

高見順の命日(八月一七日)にあわせ、高見順、川端康成、久保田万太郎、久米正雄ら鎌倉文士の寄書を公開しました。また、八月二八日からは、幕を閉じた高見順賞(五〇回)や三好達治賞(一五回)を紹介する展示を追加しました。

◆プロローグゾーン スポーツ×文学×福井

期間 三月二十七日(金)～七月八日(水)

開催予定のオリンピック・パラリンピックにあわせて、福井商業高校のチアリーダー部「JETS」の実話をもとにした小説『チア☆ダン』や、壁井ユカコ氏による福井が舞台の小説『2・43 清陰高校男子バレー部』などを展示しました。

加古里子と紙芝居

期間 七月一日(金)～一〇月二二日(水)

二〇二一年に越前市で開催予定の全国紙芝居まつりにちなみ、越前市出身の絵本作家 加古里子の展示を行いました。加古里子の創作の原点である紙芝居や、紙芝居が原作となった絵本、関連する資料を紹介しました。



冬の味わい

期間 一月二十六日(火)～三月二四日(水)

越前がにや水ようかんなど、福井の冬の味覚が登場する文学作品を紹介しました。越前がにの思い出を綴った津村節子氏の『みだれ籠』や、若狭がけいの美味しさを詠んだ則武三雄の色紙(複製)などを展示しました。

『2・43 清陰高校男子バレー部』紹介展示

期間 一月二六日(火)～二月三日(火・祝)

壁井ユカコ氏の著作で福井県が舞台の青春バレー小説『2・43』シリーズをはじめ、それを原作としたアニメや漫画、福井県とのコラボ企画「福井県×2・43」などを紹介しました。

福井県民衛星打ち上げ記念 加古里子特集展示「宇宙とどうぐ」

期間 二月二六日(金)～四月二一日(日)

福井県と県内企業が協力して作った県民衛星「すいせん」の打ち上げを記念して、多くの科学絵本を発表した加古里子の特集展を開催しました。宇宙や科学技術を描いた複製原画・絵本を展示しました。

《タイムリースポット》

福井ゆかりの作家文学忌紹介

前期 五月一日(月)～ 七月 八日(水)

後期 七月一日(金)～一〇月二二日(水)

文学忌とは、作家の名前や代表作にちなんでその命日を名付け偲ぶ日としたもので、中には俳句の季語となっているものもあります。前期では森田愛子、山川登美子、三好達治、則武三雄、岡崎純の五人、後期では高見順、中野重治、伊藤柏翠、岡倉天心、水上勉、広部英一の六人を取り上げて代表作と文学忌、関連するイベントや文学賞などを紹介しました。



ようこそ文学館へ！

期間 一月二六日(火)～三月二四日(水)

令和二年に当館を訪れたり、オンラインで出演いただいた作家の方から三人をとり上げて、当館での活動や書籍を紹介しました。

◆ギャラリー・文学の小路

三国ゆかりの作家たち

期間 八月三〇日(日)～一〇月二一日(水)

高見順の命日に関連し、みくに龍翔館と協力して三国ゆかり作家を紹介しました。また初日には、元みくに龍翔館館長の上出純宏氏の文学講座「高見順と三国」を開催するとともに、三國高等学校の生徒が詩を朗読しました。

福井県・荒川区合同特集展示

「吉村昭と医」

期間 一〇月三日(土)～一二月二三日(水)

ゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館とのおしどり文学館協定締結三周年を記念し、福井県、荒川区のそれぞれにおいて吉村昭が書いた福井ゆかりの作品を紹介しました。当館では笠原良策を描いた『雪の花』や前野良沢を描いた『冬の鷹』などを展示しました。

群馬県立土屋文明記念文学館移動展

「文学者の書―筆に込められた思い―」

期間 一月二九日(金)～三月二四日(水)

土屋文明や泉鏡花、与謝野晶子など文学者三八人の書の特徴やそこに込められた思いを紹介したパネル二五枚を展示しました。



文学の小路を作品発表の場にどうぞ！

展示室周囲のスペース「ギャラリー・文学の小路」では、文学に関する作品(詩、短歌、俳句など)を展示しています。学校の授業や部活動・県内文学関係グループの文学に関する作品発表の場としてご活用ください。

第二二回万葉の里短歌

「あなたを想う恋のうた」入賞作品展

期間 五月一日(月)～七月八日(水)

万葉の歌人中臣朝臣宅守と狭野弟上娘子ゆかりの地、味真野にちなんだ短歌コンクール「あなたを想う恋のうた」で入賞した五九首を紹介しました。

福井県現代俳句協会 令和元年 自選代表作展

期間 五月一日(月)～七月八日(水)

数々の句会や講演会を開き、福井の文学の活性化に貢献されている福井県現代俳句協会会員の皆さんの、自選俳句作品を紹介しました。

「越前市紙芝居コンテスト」歴代入賞作品展

期間 七月一〇日(金)～八月一六日(日)

全国に越前市の魅力を伝えることを目指し、平成二四年から始まった「越前市紙芝居コンテスト」の歴代入賞作品を紹介しました。

ふくい五行歌の会二〇〇回記念作品展

期間 八月一七日(月)～一〇月二一日(水)

詩人の草壁焰太氏が一九九四年に創始した「五行歌の会」を、福井支部の皆さんの作品とともに紹介しました。

第六七回福井県小中学生写生画コンクール入賞作品展

期間 一〇月二七日(火)～二月三日(火・祝)

福井県内小中学校の図画工作・美術教育の充実・向上を目的とした「県小中学生写生画コンクール」で入賞を果たした作品を紹介しました。

白川文字学こども漢字教室「古代文字・森羅万象」

期間 一月五日(木)～二月六日(日)

福井県立図書館にて開催した「白川文字学こども漢字教室」のワークショップで完成させた作品を展示しました。

「家族ふれあい」絵手紙コンクール

期間 一月五日(木)～二月六日(日)

福井市が主催する「家族のふれあい」をテーマにした絵手紙コンクールの入賞作品を紹介しました。

令和二年度 県高等学校書道展「特選」作品展示

期間 二月九日(水)～二月二二日(金)

福井県内高等学校および特別支援学校の書道部生徒の特選作品を紹介しました。

生まれ！わたしの漢字展

期間 一月二二日(火)～一月二四日(日)

福井県の小・中・高校生が、越前和紙に思いを込めて書いた自分の好きな漢字を展示しました。

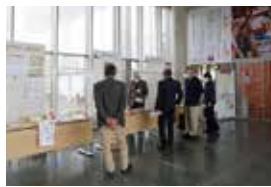


教育普及活動

文学フェスタ

一月、県内で文芸創作を行う方々が作品を発表したり、作り手や読者が交流する場として、文学のお祭り「文学フェスタ」を開催しました。図書館エントランスホールには、コロナ禍のなか、文学同人や高校の文芸部、編集にも携わる書店など一〇団体がブースを開設し、同人誌の配布や活動紹介を行いました。各団体のみなさんは、感染防止対策を講じながらではありますが、作品を一般の方に見ていただく貴重な機会と捉えるとともに、他の団体の方との温かな交流も見られました。

また、文学キネマ「小さいうち」(山田洋次監督)上映会開催にあたり、原作者の中島京子氏が直木賞受賞の原作の背景などを語る特別メッセージを上映しました。戦時中の人々の生活を綿密に取材されたことを伺い、参加者も新たな目で作品をご覧になったようです。文学講座「教室を飛び出して国語の教科書を読んでみる」では、三好修一郎氏から教科書掲載の作品を読み味わう楽しみを教えてくださいました。このほか、福井の文学出版物の展示や、ふるさと文学難問クイズを行いました。カフェあすわの木では、文学キネマにまつわる特別メニューを楽しんでいただきました。制限があるなかでも、文学に親しむ充実した一日になりました。



作家講演会

一〇月に、書家で評論家でもある石川九楊氏の講演会「書という文学への旅」を開催しました。講演ではまず書の見方について、何と書いてあるか悩まない、図形のようなものと考えない、上手いか下手かを考えない、という注意点を示しました。そして、書を一点一画としてとらえ、その深さと早さと角度を見ることが、書き手の思想や生き方に触れることができることを高村光太郎や久保田万太郎の書を例に分かりやすく紹介しました。また、書くことと話すことを巡る東洋と西洋の違いや、漢字排斥運動がなぜ実現できなかったのか、更には書の先進県である福井を形作った先人の方々の業績にいたるまで、幅広く解説しました。

オーサートーク〈作家による出前授業〉

一月一七日に若狭高校、一八日に仁愛女子高校で開催しました。今回はオンライン授業で、作家・壁井ユカコ氏が、フジテレビアニメ開発部・榎本有希氏と福井を舞台にした小説『2・43 清陰高校男子バレー部』について語りました。



壁井氏はまず小説の舞台を福井に設定した理由について、夫が福井出身で馴染みがあることや、小説を書き進めるうちに雪深い情景と福井弁を話す登場人物が作品世界に彩りを与えることに気付いたからだと話しました。続いて榎本氏がアニメ制作の舞台裏について、「企画」「シリーズ構成」「絵コンテ」「アフレコ」という四つの段階に沿って紹介し、ロケーションハンティングや方言指導等について触れる中で、福井の方が見ても違和感がない作品に仕上がっていると述べました。

その後壁井氏が生徒からの質問に答え、バレーの魅力を伝え

るために試合はスピーディーでかつ正確な描写に努めたこと、登場人物それぞれの性格や視点の違いを大切にしながら書いていくことなどを語りました。

文学講座

七月に、かこさとしふるさと絵本館「碓（ろく）」館長・谷出千代子氏による講座「かこさとしとフリーハンドで描くふるさとの風景」を開催し、加古里子の心に常に故郷の景色が存在していたことを、様々な作品に触れながら語りました。

一二月には講座「郷土作家の書を読む、文学を読む」を開催し、石川九楊氏が、筆蝕とは何かということや、作家の筆蝕と文学のスタイルとの深い関わりについて説明しました。

二月には、仙台白百合女子大学教授の大本泉氏が「福井をめぐる作家と文学」と題して講義し、福井ゆかりの作家や文学作品と食との関わりについて紹介しました。また同月、作家の松尾佑一氏による講座「理系小説の面白さ」を開催し、理系をテーマにした小説の創作に関する秘訣や自身のエピソードを紹介しました。

ふくふく文学ゼミ

作家養成講座「ふくふく文学ゼミ」は六期目を開講し、一三名が受講しました。新潮社の編集者・上田恭弘氏から、小説執筆の心構えや登場人物の設定、ストーリーの作り方など、一年を通じたプログラムのより小説執筆のコツを学びました。また、毎回の提出作品の合評では仲間との切磋琢磨により実践力を磨きました。特別講座では、現役作家から創作に関する具体的なアドバイスをいただきました。



上田恭弘氏



谷出千代子氏

出前文芸創作教室

九月に和泉中学校と上志比中学校で俳句の授業を行いました。講師の俳人・中内亮玄氏は、まず俳句の歴史と表現上の特徴について説明し、生徒が事前に創作した俳句を取り上げて、それぞれの良い点、改善点を話しました。



中内亮玄氏

後半は著名俳人が青春を詠んだ俳句を紹介し、生徒たちがそれぞれに句に込められた思いを想像しながらふさわしい言葉や空欄に当てはめる、という問題に挑戦しました。正解が紹介されると生徒たちは、驚きとともに俳句における一つ一つの言葉の大切さを感じ取っていました。

文章講座

風花随筆文学賞実行委員会と共催し、新潮講座の講師と県内在住の作家を講師に迎え、随筆を書くポイントを解説いただきました。新潮社の森重良太氏は、人を惹きつけるエッセイの構成とそれぞれの特徴、書くべき内容の違いや感情の込め方を説明しました。作家の張籠二三枝氏は、キーワードや文章全体の構成を意識すること、書き出しと結びは慎重にすることを重点的に説明しました。



創作講座

五行歌の入門講座を開催しました。前半はふくい五行歌の会会長の安川美絵子氏が「誰の心にも名作はある」と題して講義され、五行歌の生まれ経緯や、誰もが独自の表現を生み出すことができる特徴を紹介しました。後半は歌会が開かれ、歌の朗読とそれぞれの歌についての感想が交わされました。



安川美絵子氏

令和2年度に開催したイベント一覧

期 間	イベント名	場 所	期 間	イベント名	場 所
7/5(日)	第1回ふくい文学ゼミ	多目的ホール	11/1(日)	文学フェスタ 「文学キネマ:小さいうち」 作者からのリモートメッセージ 「同人誌ブース」 「ふるさと文学難問クイズ」	多目的ホール
7/25(土)	文学講座(谷出千代子氏)	多目的ホール			エントランスホール
8/30(日)	文学講座(上出純宏氏) 詩の朗読(三国高等学校)	多目的ホール			文学館カウンター
9/6(日)	第2回ふくい文学ゼミ リモート	多目的ホール	12/9(水)	文学講座(石川九楊氏)	多目的ホール
9/12(土)	出前文芸創作教室(俳句:中内亮玄氏)	和泉中学校	12/17(木)	オーサートーク(壁井ユカコ氏) リモート	若狭高校
9/12(土)	第1回文章講座(森重良太氏) リモート	多目的ホール	12/18(金)	オーサートーク(壁井ユカコ氏) リモート	仁愛女子高校
9/16(水)	出前文芸創作教室(俳句:中内亮玄氏)	上志比中学校	1/17(日)	第4回ふくい文学ゼミ リモート	大会議室
9/19(土)	第2回文章講座(張籠二三枝氏)	多目的ホール	1/31(日)	文学キネマ「かもめ食堂」	多目的ホール
10/11(日)	創作講座 五行歌(安川美絵子氏)	多目的ホール	2/7(日)	文学講座(大本泉氏) リモート	研修室
10/24(土)	石川九楊氏講演会	多目的ホール	2/20(土)	文学講座(松尾佑一氏)	多目的ホール
10/31(土)	第3回ふくい文学ゼミ	多目的ホール	2/21(日)	第5回ふくい文学ゼミ リモート	研修室
11/1(日)	文学フェスタ 「文学講座」(三好修一郎氏)	多目的ホール	2/28(日)	デジタル展示関連講座(松村俊幸氏)	多目的ホール
			3/13(土)	文学キネマ「おかえり、はやぶさ」	研修室

資料寄贈のお願い

当館では、福井の文学に関する資料を収集・保存し、次の世代に継承するとともに展示・研究などで活用してまいります。福井ゆかりの作家や作品に関する資料（自筆原稿、書簡、書画、挿絵、愛用品、写真、映像等）がございましたら、文学館までご寄贈くださいますようお願いいたします。

【寄贈受贈】

令和二年度にご寄贈いただいた方を紹介します。
石川九楊氏、金田久璋氏、坪内啓子氏、故広瀬俊男氏、広瀬真紀氏、三好和子氏、横町信子氏、山本祐夫氏、吉田淳一氏（五十首順）

ピックアップ

◆福井県ふるさと文学館内には、「風花随筆文学賞」の事務局があります。

毎回県内外から多数のご応募をいただいております。今回も、全国四七都道府県、海外一〇か国から合計四九〇八編の応募作品が寄せられました。「書くことは自分探し」とは、特別審査委員長の出久根達郎氏の言葉です。皆さんも言葉を紡ぐ中で、自分でも気付かなかった想いに触れたことはありませんか。この文学賞が、応募された方々に新たな気付きや感動をもたらす契機となることを願っております。

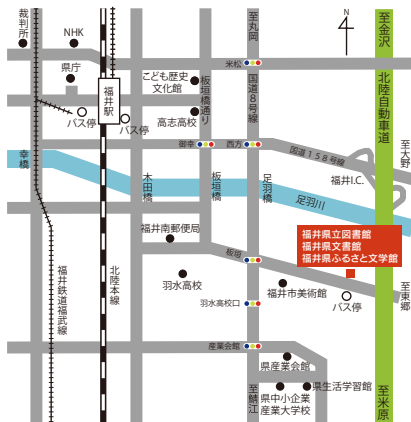


©青化

編集後記

本年度はコロナ禍への対応に追われた一年でしたが、則武三雄展や石川九楊展などを開催し、多くの方々にご覧いただくことができました。また講演会もリモートで実施するなど、新しい試みが実現でき、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後も文学の持つ魅力を発信し続けるため、時代の変化に対応した新しい形の展示やイベントを模索してまいりたいと考えております。皆様のご来館をお待ちしております。



観覧料：無料
休館日：毎週月曜日（休日の場合は翌日）、
祝日の翌日（翌日が土日の場合は除く、年末年始、
資料点検期間（第四木曜日）によって変更あり）
開館時間：平日 九時～一九時
土日祝 九時～一八時

ふるさと文学館へはフレンドリーバス（無料）が便利です。
福井駅東口バスターミナルから30分間隔で運行（約15分）

福井県ふるさと文学館報 第7号

発行日 令和 3年3月31日
創刊日 平成27年3月31日
発行所 福井県ふるさと文学館
福井市下馬町51-11
TEL:0776-33-8866
FAX:0776-33-8861
[https://www.library-archives.pref.fukui.jp/\(55030\)](https://www.library-archives.pref.fukui.jp/(55030))

